

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
経営学 I Business Administration I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	()	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
マーケティング				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
マーケティング				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
モノ、ヒト、カネの3つの経営資源を、情報を中軸とした有機的なシステムとして設計・運用し、企業マネジメントの効率化や生産性の向上を図るのみならず、環境にも配慮しつつ、人間にとって快適な労働(職場)生活が営めることを考究する学問であるマネジメント工学の立場から企業の種類や経済社会における企業の役割、現代社会の代表的企業である株式会社の企業形態的な特徴とその組織管理、コーポレートガバナンスなど、現代社会における株式会社の役割や特徴に関する知識を習得することが本講義の中心テーマである。				
授業の目標				
①企業形態の特徴、株式会社の特徴・組織を説明できるようにする。 ②現代企業におけるコーポレートガバナンスの意義とその実現方法を説明できるようにする。 ③マネジメント工学の体系と内容を説明できるようにする。 ④4つの経営資源の分野の基本的内容を説明できるようにする。 ⑤経営科学と経営情報システムの基礎を説明できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義方式であるが出来るだけダイアログ方式を取り入れて受講者の理解を深める。また、適宜、グループ別ディスカッションを行い、その成果をグループ別に発表する。				
学習の成果(学習成果)				
①企業形態の特徴、株式会社の特徴・組織を説明できる。 ②現代企業におけるコーポレートガバナンスの意義とその実現方法を説明できる。 ③マネジメント工学の体系と内容を説明できる。 ④4つの経営資源の分野の基本的内容を説明できる。 ⑤経営科学と経営情報システムの基礎を説明できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等)/学修の準備: マネジメント工学について事前に調べておく			
第2回目	組織学習組織学習の基本概念、メカニズム 学修の準備: メカニズムについてまとめる			
第3回目	社会を分析する統計学統計学が説明できる社会的事象 学修の準備: 統計の基礎知識の整理			
第4回目	実証研究とは具体的研究例の紹介 学修の準備: 実証研究の意味付け(グループワークによるプレゼンとディスカッション①)			
第5回目	生産管理と品質管理生産管理の役割、品質の概念 学修の準備: 品質について調べておく			
第6回目	デザインエンジニアリングと経営統計設計工学とは、経営統計の必要性 学修の準備: 経営統計について調べておく			

第7回目	人間工学と信頼性工学 人間工学とは、信頼性とは 学修の準備：人間工学について調べておく	
第8回目	販売と流通のマネジメント (1) 販売のマネジメント、(2) マーケティング、(3) 流通とその役割、(4) ロジスティクスとサプライチェーン、学修の準備：流通マネジメントについてまとめる	
第9回目	マネジメント工学の概説 (1) マネジメントの定義、(2) マネジメント思想の変遷(3) 企業とは、(4) 企業をめぐる諸問題、学修の準備：マネジメントについて整理する	
第10回目	経営戦略と組織 (1) 経営戦略とは、(2) 組織原則と階層、(3) 新たな組織のあり方 学修の準備：経営戦略と組織について整理する	
第11回目	人的資源のマネジメント (1) HRMとは、(2) HRMの歴史、(3) HRMの諸領域、(4) キャリア開発、(5) エンプロイアビリティ、学修の準備：人的資源について調べる	
第12回目	会計と財務のマネジメント：(1) 財務会計と管理会計、(2) B/SとP/L、(3) 利益と決算、(4) キャッシュフロー 学修の準備：会計とは何かをまとめる	
第13回目	生産と品質のマネジメント (1) 生産と生産管理、(2) 品質と品質管理、(3) 品質保証、(4) ジャストインタイム 学修の準備：生産とは何かまとめる	
第14回目	販売と流通のマネジメント (1) 販売のマネジメント、(2) マーケティング、(3) 流通とその役割、(4) ロジスティクスとサプライチェーン、学修の準備：流通マネジメントについてまとめる	
第15回目	学習目標達成度の確認(2) Problem-Solving-Learning(グループワークによるプレゼンとディスカッション)	
事前・事後学習	事前学習(シラバスの学習ポイントを自分で調べ、質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを見直しながら、1) 常に疑問を持ち、2) 物事を多面的に考え抜き、3) 自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	20%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験	20%	期末記述試験
発表内容(態度含む)	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59
教科書と参考図書		
		長江庸泰作成の“デジタルテキスト[経営学 I 2019年度版]”を活用する。
履修上の留意点・ルール		
		●実務経験(職種：会社役員、職歴：通算39年) 本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自主創造の精神に基づく課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。